

2024年度 同志社大学大学院 司法研究科

後期日程入学試験問題 〔小論文〕

以下の【課題文1】及び【課題文2】を読んで、第1問から第3問に答えなさい。

第1問（配点：40点）

【課題文1】のいう「演繹的思考」と「帰納的思考」とを対比して説明し、日本の近代化において演繹的思考が影響力をもったと筆者が考える理由を300字程度で述べなさい。

第2問（配点：30点）

アクティブ・ラーニングという教育政策の進め方にはどのような問題があると考えられるか、【課題文1】から読み取り、300字程度で述べなさい。

第3問（配点：30点）

【課題文1】の筆者の視点に立った場合には、【課題文2】にいうウェルビーイングの向上という教育政策はどのように進められるべきことになるか、400字程度で述べなさい。

出典：【課題文1】 荻谷剛彦『追いついた近代消えた近代－戦後日本の自己像と教育－』（岩波書店、2019年）【課題文2】 2022年12月30日朝日新聞朝刊。出題との関係で、必要な省略、変更、補足を施している。